

# 最新技術 次代を拓く

## 出版デジタル機

（株）出版デジタル機構（東京都千代田区神田錦町、代表取締役社長：新名新氏）は、Webを活用した紙の書籍の販促支援ソリューション

## プロに発売前のゲラ提供

紙書のWEB販促ツール 日本語版 サービス

「NetGalley（ネットギャリー）」日本版サービス（http://www.netgalley.jp）の提供を10月17日より正式に開始した。

本サービスは、書店員や図書館員、教育関係者やネット上のプロガーなど、プロフェッショナルな側面を持った「本の応援団」ともいべき読者に対して、発売前の書籍のゲラ（英語でGalley）や見本をセキュリティーの施された電子コンテンツの形態で配布する仕組み。

こうした読者は無料で同サービスを利用することができる上、興味のある作品のゲラを出版社にリクエストすることができ、また出版社によってリクエストを承認された読者は、発売前の本を読んでレビューを書いたり、作品内容やカバーデザインを評価したりするなど、さまざまなフィードバックを行うことができる。

「NetGalley」を通じた出版社と影響力のある読者との相互作用により、これから刊行される書籍

の情報がネットを通じて広く社会に拡散される。一方で出版社は、発売前の書籍に関する貴重なフィードバック情報を入力することができるようになる。

「NetGalley」はアメリカのNetGalley LLCが提供するサービスで、北米では大手を含む300以上の出版社に利用されている。同サービスはアメリカのみならずカナダ、オーストラリア、イギリス、フランス、ドイツでも展開されており、日本版の運営は出版デジタル機構が行う。

これまではKADOKAWA、幻冬舎、講談社、光文社、集英社、小学館、ディスカヴァー・トゥエンティワン（50音順）の7社でテストを実施していたが、本格稼働によって新たに朝日新聞出版、イースト・プレス、秀和システム、主婦の友社、竹書房、トランスビュー、白泉社、PHP研究所、ブリッジ、マガジンハウス（50音順）が加わり、17社から作品の提供を受けることになる。

書店関係者を中心とした700人ほどのテスト会員を核に、今後は「本の応援団」を志す会員の募集も大々的に開始する。低迷する書籍市場を活性化し、出版社のみならず書店、取次をも支援する究極のツールとして、多くの出版社が利用できることを目指す。

さらに登録は無料で、一人でも多くの本好きの会員に加え、出版文化を支えていきたいと考えている。

今後は出版デジタル機構は、電子書籍やプリント・オン・デマンド（POD）の流通はもちろん、コンテンツ製作支援ソリューション「Picasso（ピカソ）」や「NetGalley（ネットギャリー）」をはじめとした新規事業を通じ、紙と電子の双方において、デジタルテクノロジーによる新しい出版の姿を追求していく。



【主な特長】  
(1)疑似反射光線群による立体像の再生  
物体表面で反射した光線群を肉眼で観ることで、人は立体像を視覚している。この3D-Displayでは、光線群を光学的に作り出すことで、スクリーン内に立体像を再生することができる。

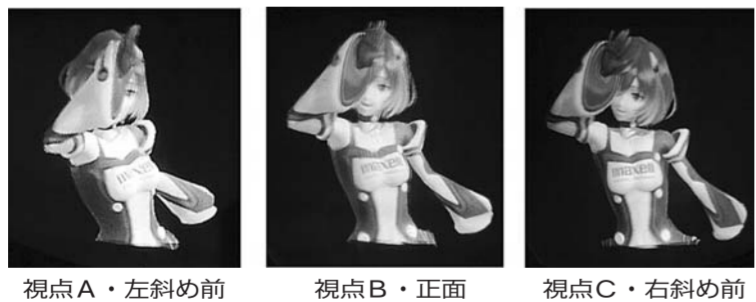
独自の開発の3D光学系により生成した疑似反射光線群は、立体像から斜め上の視点方向に進み、立体像を取り囲む円周方向に立体像として映像を視認できる領域（視域）を形成する。生成した光線群の密度が高いほど、それぞれの視点においてよりリアルな立体像を再現できる。

(2)3D-Display光学系の構成  
3D-Displayの光学系は、光線の拡散を制御する円錐状スクリーンに対して、複数のプロジェクターからの映像を同期して重畳投写することで、スクリーン内にリアルな立体像を表示する。

この原理は、複数のプロジェクターを円錐状スクリーンの外周に配列して、その外側から映像を投写するもの。この結果、各プロジェクターからの投写映像は、円錐状スクリーンを通過して立体像を生成するための必要な光線群を形成することで、得られる立体像の解像度と質感の向上を図った。

なお本方式による立体像の見え方を検討するため試作機は視野角を50度としているが、原理的には360度に拡張することが可能。

(3)立体像のリアリティ向上技術  
上から見下ろす角度と比べ、正面からの視点は浮遊感が高く、よりリアルな立体像として観ることができる。このため試作機では円錐状スクリーンを斜めにカットすることで、浮遊感のあるリアルな立体像を、正面からの視点で観られるようにしている。



視点A・左斜め前 視点B・正面 視点C・右斜め前

## マクセル

マクセル（株）（取締役社長：勝田善春氏）はこのほど、曲面スクリーン上に立体像を表示するGlasses-free 3D-Display（裸眼3Dディスプレイ）。以下、3D-Displayを開発した。この3D-Displayは複数の人が裸眼のまま、360度方向からそれぞれの視点に対応した立体像を観ることができる。

## 曲面スクリーンに立体像表示 裸眼3Dディスプレイを開発

この3D-Displayは、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）ユニバーサルコミュニケーション研究所の「iVisiOn」を基に、マクセル独自の光学技術と映像技術を組み合わせることで浮遊感を向上させ、よりリアルな立体像表示を可能とした。

光線の拡散を制御するための特殊な微細形状を表面に設けた円錐状スクリーンに対し、複数のプロジェクターからの投写映像を同期させて重畳投写し、スクリーン内にリアルな立体像を再生する。マクセルが開発した独自の3D光学系によって、光線密度を従来比3.5倍と高めた光線群を生成し、それにより立体像の解像度を大幅に向上させるとともに、立体像のサイズも拡大した。

これにより上の図の視点A、視点B、視点Cのように、裸眼のまま異なる方向からリアルな立体像を観ることができ、コンテンツ生成技術と組み合わせ、動画再生も行える。

今後マクセルは、この3D-Displayの実現技術をも、デジタルサイネージや車載映像表示システムなどの分野へ展開していく。

なおこの3D-Displayの試作機を、10月28日～11月5日に東京ビッグサイトで開催された「東京モーターショー 2017」の日立グループブースに参考出展した。

本方式による立体像の見え方を検討するために、試作機は視野角を50度としている。

## キヤノン

キヤノンは、プレミアムコンパクトカメラPowerShot Gシリーズの新製品としてフラッグシップモデル「PowerShot G1 X Mark III」を11月下旬より発売する。

## 大型CMOS センサー搭載 豊かな表現力実現

### プレミアムフラッグシップモデル

【PowerShot G1 X Mark III】  
価格＝オープン価格  
発売日＝2017年11月下旬  
【主な特長】

新製品は、「PowerShot G1 X Mark II」（2014年3月発売）の後継機種として、本格的な写真表現を求めるユーザー向けに開発されたレンズ一体型カメラ。

▶APS-CサイズのCMOSセンサー、大口径ズームレンズ、映像エンジンDIGIC 7の連携により、軽量コンパクトボディながらフラッグシップモデルにふさわしい高画質を実現

▶APS-Cサイズの大型CMOSセンサーと光学3倍ズームレンズによる豊かな表現力

キヤノンのコンパクトカメラ初となるAPS-Cサイズ・有効画素数約2420万画素（注1）のCMOSセンサーの採用に加え、新設計の大口径光学3倍ズームレンズ（24～72mm相当※2）／F2.8～F5.6を搭載し、美しいポケ味や豊かな階調を表現した撮影が可能になった。

また、映像エンジンDIGIC 7搭載により、高感度撮影時のノイズ耐性や高解像度を実現し、静止画撮影時の常用ISO感度25600を達成した。

（注1）総画素数約2580万画素。  
（注2）35mmフィルム換算。

▶軽量コンパクトボディに充実した撮影機能を搭載  
約115.0mm（幅）×77.9mm（高さ）×51.4mm（奥行き）、質量約399g（注3）と、従来機種に比べて質量約27%、体積約16%という軽量・小型化（注4）を実現した軽量コンパクトボディでありながら、高精度・高画質を実現する「デュアルピクセルCMOS AF」や、防じん・防滴性能（注5）など、充実した撮影機能を備えている。

またファインダー撮影時には、内蔵する高精細EVFとタッチ操作が可能なバリアングル液晶モニターが連動し、EVFをのぞきながらEVF上に表示されたAF枠を液晶モニターのタッチパネル操作で移動できる「タッチ&ドラッグAF」機能を搭載し、直感的なピント合わせが可能である。

（注3）質量はバッテリー・カードを含む（CIPAガイドラインに準拠）。

（注4）従来機種「PowerShot G1 X Mark II」との比較において。キヤノン調べ。「PowerShot G1 X Mark II」は、約116.3mm（幅）×74.0mm（高さ）×66.2mm（奥行き）、質量約553g。  
（注5）防じん・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、カード／バッテリー収納部ふたなどの開閉部をしっかりと閉じること。

このカメラは、不用意に降りかかる砂じみや水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防じん性・防滴性に配慮した製品となっているが、ゴミやホコリ、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできない。

【付加価値高い機種に人気】  
＜コンパクトデジタルカメラの市場動向＞

2016年の世界市場規模は約1500万台だった。2017年は約1300万台を見込んでいる。

近年では、大型の撮像センサーを搭載した「高級コンパクト」と呼ばれるカメラや、高倍率ズームレンズを搭載したカメラなど、レンズ一体型のコンパクトカメラならではの付加価値の高い性能を備えた機種が人気を集めている。

また、スマートフォンやタブレットなどの携帯端末の普及に伴い、無線でのネットワーク連携を拡充するなど、カメラの新しい価値を提案する性能を持つ機種なども注目されている（キヤノン調べ）。



## ミマキエンジニアリング

（株）ミマキエンジニアリング（本社：長野県東御市、代表取締役社長：池田和明氏）は、4×8板サイズに対応し、フラットベッドUVインクジェットプリンター「JFX200-2513」とのプリント＆カット連携を強化した、フラットベッ



「CF22-1225」

ドカットプリンター「CF22-1225」の販売を11月中旬より開始する。

今回発表する「CF22-1225」は、看板製作で多く用いられる4×8板（1220mm×2440mm）サイズの素材をカットでき、同社のフラットベッドUVインクジェットプリンター「JFX200-2513」と組み合わせで使用するのに最適なフラットベッドカットプリンター。プリント時にデータ識別IDをプリントすることで、自動でカットデータを読み込んでカット開始できる「IDカット機能」を搭載し、より簡単にプリント＆カットが実行できる。

「CF22-1225」は、ミマキのCutting技術を活用した詰め込み、パッケージに使用されるコートボール等のカット、曲げに必要な野引き線の加工、緩衝材に利用される発泡材のレシプロカットが1台で行え、試作の作成、オンデマンドのパッケージ生産を後押しする。

同社のUVプリンターやCADソフト「ArtiosCAD DS」と組み合わせることで、パッケージや什器の設計から、製品へのプリント、パッケージのカット、緩衝用発泡材の作成までをトータルで受注でき、さらに完成までのコストとリードタイムを削減できる。

また樹脂や各種ゴムなどの工業用素材に幅

## 「IDカット機能」搭載 フラットベッドUVインクジェットプリンター



ArtiosCAD DSでの作業風景

広く対応したカッターヘッドも用意しており用途に合わせた最適なものを選択できる。

【CF22-1225】  
＜主な特長＞  
(1)IDカット機能で簡単プリント＆カット連携  
IDカット機能は、カット情報とメディアの回転角度情報を含んだデータ識別IDをプリントすることで、「CF22-1225」使用時にカットデータを自動で読み込んでカットを開始できる。メディアセット向きの確認の手間を省き、データの送付ミスやメディアのセットミスによるメディアとインク、作業時間のロスを削減。

【JFX200-2513】  
(1)UV硬化インクを採用したフラットベッドインクジェットプリンター。

プリント可能範囲は2500mm×1300mmのため、4×8板（1220mm×2440mm）へのダイレクトプリントも可能。また高さ50mmまでのメディアへのプリントに対応。

(2)組み合わせで広がるオンデマンドソリューション  
ミマキのUVプリンターや、CADソフト「ArtiosCAD DS」を組み合わせることで、パッケージや什器の設計から、製品へのプリント、パッケージのカット、緩衝用発泡材の作成までを一貫して行える。試作サンプルの作成、極小ロットの生産をオンデマンド化し、少量多品種の展開を容易にするとともに、完成までのコストとリードタイムを削減する。

【ArtiosCAD Designer Solution】  
＜主な仕様＞  
有効作図範囲＝2500mm×1220mm  
セット可能メディアサイズ＝2600mm×1360mm  
駆動方式＝X/Y/Z/θ軸＝DCサーボモーター  
最大速度＝55mm/秒  
電源仕様＝単相AC100V～240V  
消費電力＝300W  
外形寸法（W×D×H）＝◎RC/RTヘッド・3160mm×1930mm×1200mm  
◎T/TD/TFヘッド・3160mm×1930mm×1150mm  
重量＝本体230kg（RC-Sヘッド）  
【販売価格】  
Tヘッドモデル＝500万円（税別）  
▶TD/TFヘッドモデル＝580万円（税別）▶RC/RTヘッドモデル＝720万円（税別）  
販売開始＝2017年11月中旬  
販売目標＝100台/年間（全世界）  
【問い合わせ】  
（株）ミマキエンジニアリンググループ パッケージング部（長野県東御市滋野乙1628-1、☎0268-80-0078、FAX0268-80-0041）

## デル

デルJ（株）（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：平手智行氏、以下「デル」）は、プロフェッショナル向けワークステーション「Dell Precision」の20周年を記念したモバイルワークステーション「Dell Precision 5520 20周年記念モデル」を8月1日に販売開始した。またデジタルクリエイター向けの新たなワークスペースデバイス「Dell Canvas」を8月29日に、「Dell Precision 5820タワー/Precision 7820タワー/Precision 7920タワー」/「Dell Precision 7920ラック」を10月3日に発売した。

## 最小・最薄・最軽量 記念モデルを発売 「Dell Precision」20周年記念

「Dell Precision」は、高い性能とプロフェッショナルクリエイターのニーズに応じて設計された完全にカスタマイズ可能な特長により、優れたデジタルクリエイティブのアイデアを実現するための基盤を20年間にわたり提供してきた。

1997年に「Dell Precision 400 MT」の製品ラインが発表されて以来、Dell Precisionは業界を変革し、常識を打ち破る技術者とクリエイターのニーズに合わせて設計されてきた。

販売開始日＝2017年8月1日  
販売価格（税抜き、送料込み）＝34万9980円～  
【最新ラインナップ】  
「Dell Precision 5820タワー/Precision 7820タワー/Precision 7920タワー」は、革新的かつ柔軟な設計と最新のインテルXeonプロセッサ、次世代のAMD Radeon Pro、およびNVIDIA Quadroプロフェッショナルグラフィックカードなど、最高レベルのパフォーマンスを発揮する組み合わせによって、最も複雑なプロジェ

クトもシームレスにこなせるよう構成されている。プロフェッショナル向けソフトウェアアプリケーションを対象としたISV認定を取得しており、VR（仮想現実）コンテンツの開発にも対応する。

独自のDell Reliable Memory Technology（RMT）Proは、メモリ交換におけるワークフローの中断を解消し、Dell Precision Optimizer（DPO）は多様なハードウェア、ソフトウェアの組み合わせに対してパフォーマンスを最適化する。またカスタマイズ可能な構成オプションは、ほぼあらゆるワークロードに対応する柔軟性をもたらす。

最新のインテルXeonプロセッサ

## 最小・最薄・最軽量 記念モデルを発売

「Dell Precision」は、高い性能とプロフェッショナルクリエイターのニーズに応じて設計された完全にカスタマイズ可能な特長により、優れたデジタルクリエイティブのアイデアを実現するための基盤を20年間にわたり提供してきた。

販売開始日＝2017年8月1日  
販売価格（税抜き、送料込み）＝34万9980円～  
【最新ラインナップ】  
「Dell Precision 5820タワー/Precision 7820タワー/Precision 7920タワー」は、革新的かつ柔軟な設計と最新のインテルXeonプロセッサ、次世代のAMD Radeon Pro、およびNVIDIA Quadroプロフェッショナルグラフィックカードなど、最高レベルのパフォーマンスを発揮する組み合わせによって、最も複雑なプロジェ



NVIDIA Quadro K6100は、マシンラーニングやディープラーニング向けアプリケーションなどの認識技術の開発や導入を実現する。HBM 2メモリーやNVLinkテクノロジーなどのNVIDIA Pascal GPUオプションは、プロフェッショナル向けに優れたパワーとパフォーマンスを発揮するため、コンピューター支援エンジニアリング（CAE）での非常に複雑なデザインやリア

ルなVR環境の構築を可能にする。AMD Radeon Pro SSGグラフィックスは、高速なHBM 2メモリーと2TBのSSDを搭載するため、膨大なデータセットのハイパフォーマンスコンピューティングや、かつてない大規模レンダリングによるリアルタイムでの8K動画の編集や再生を実現する。

Adobe Premiere ProとAdobe After Effectsのプレビューでは、完全に統合されたRadeon Pro SSG APIソリューションによる編集や再生が可能になる。

「Dell Precision 7920ラック」は、最高性能のタワーワークステーションと同等の処理能力と拡張性を2Uのフォームファクターで提供するため、セキュアなリモートワークに最適。

【Dell Precisionワークステーション担当バイスプレジデント兼ジェネラルマネージャー：ラウール・ティッカー氏談】

「Dell Precisionワークステーションの20年間を振り返ると、業界の進化、そしてワークステーションの優れた性能とソフトウェアの組み合わせがいかに素晴らしいものを実現してきたかを感じることができ、これらの実績と同様に素晴らしいのは、我々を突き動かすイノベーションに対する欲求だ。今回新たに発表する製品は、顧客のニーズに適合する最もパワフルなテクノロジーを搭載し、当社の20年間のイノベーションを反映したものだ。」

【Dell Canvasについて】  
「Dell Canvas」は、デジタルクリエイティブワークをより自然に行えるよう入念に設計された新たなワークスペース。デスクに対して水平になる27インチQHDタッチスクリーンを搭載し、最新のWindows 10 Creators Updateによる駆動が可能。またデジタルペンは優れた描き味による精度を、チームは多様なメニューとショートカットのインタラクティブな操作を可能とした。

